

ねりまブラン（白ワイン） 応募作品一覧（全17作品）

作品No.1



<デザインコンセプト>

こちらの画像は白ワインのラベルですが、白ワイン、赤ワインとペアで考えました。呑む際やテーブルに置いておいても、暖かいほっこりしたハッピーオーラのあるラベルでどの世代からも受け入れられて、ジェンダーレスなデザインを考えました。また、日本ワインなので日本を感じるような文字にしました。練馬の美しい空のもとで生まれたワインなので、空を感じる水色をベースにいたしました。

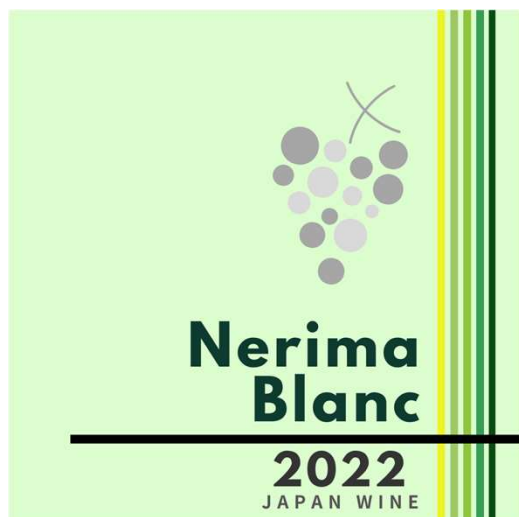
作品No.2



<デザインコンセプト>

雰囲気はジャムラベル・北欧風になっています。私は収穫祭にも参加をさせていただいたので、白ぶどうの熟して種が透けている感じと空気の爽やかさをデザインに反映しています。

作品No.3



<デザインコンセプト>

すっきりとした味わいのねりまブランの特徴を、直線を主体としたシャープなデザインで表現。縦の直線は練馬区公式カラーである5色の緑「ねりまグリーン」をイメージして、緑豊かな練馬の地で産まれたワインであることを伝えつつ、ねりま愛もたっぷりこめてみました。

作品No.4



<デザインコンセプト>

白・赤に共通していますが、「100%練馬産」をコンセプトにデザインしました。ぶどうのつるをモチーフにした曲線で練馬区をかたどりました。配色は、白には緑系のさまざまな色、赤には赤紫系のさまざまな色を取り入れ、「ブレンド品種」による多彩な香りとテイストを表現しました。全体的に軽やかでやさしい口当たりを表現しました。

作品No.5



<デザインコンセプト>

こちらの画像は白ワインのラベルですが、白ワイン、赤ワインとペアで考えました。何気ない日常も、特別な日も「ワインとお花で乾杯」テーブルに置くだけで幸福感があるような華やかな花束のイラストを描きました。

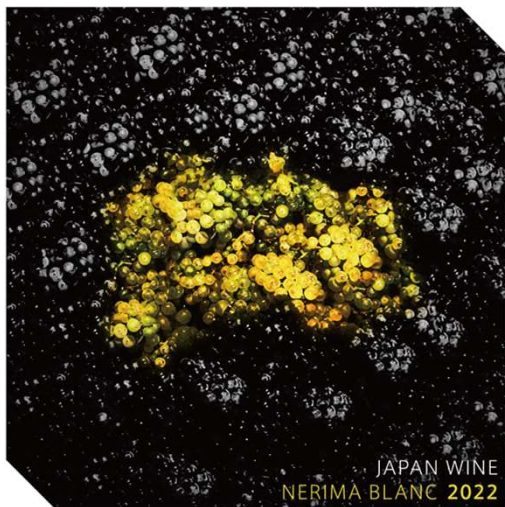
作品No.6



<デザインコンセプト>

5年目を迎えたねりまワインプロジェクトの努力の結晶であることを「5つの円」で表現。また、特徴の違うぶどうが混ざっている様子をぶどうを表す「5つの円」と発酵槽をイメージした四角形で。「ねりまグリーン」をイメージした色彩に加え、今年印象的だった「満月の日の収穫祭」を、最上部に配した黄色めの円で表現。

作品No.7



<デザインコンセプト>

果実を収穫した際に、陽の光に輝く姿がまるで宝石のように見えた事が深く記憶に残りました。今回、練馬で作られたワインを手にする皆さんにその印象を伝えたく果実の輝きが見えるようなラベルをデザインさせて頂きました。輝きのシルエットは、練馬区の形を模しており、この地で産まれた事を祝福する想いを込めております。

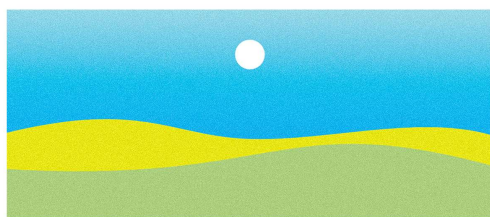
作品No.8



<デザインコンセプト>

ラベルの中央にいるのは、練馬区の形からインスパイアされた犬です。周りのマゼンダ色の水玉模様は練馬区の花、つつじの花を表現しています。ガラスボトルの色がグリーンとことですので、ボトル全体で、花＝マゼンダ色と葉＝ボトルのグリーンが表現されます。つつじの中で犬が楽しく走り回っている様子をイメージして作りました。

作品No.9



ねりまブラン



2022
Japan Wine

<デザインコンセプト>

「日常の中で、ふと心奪われる瞬間」をテーマに、空をモチーフにしてデザインを作成しました。帰り道、日が沈みかけた頃の空を見上げてすこし気持ちが緩む瞬間を。窓を開けた時、あたたかい風が吹き、どこかさわやかな気持ちになる瞬間を。ワインを飲みながら、思い出していただけたらうれしいと思っています。ワインのしずくに練馬のイニシャル「N」を重ねたロゴを配置して、オリジナリティを加えました。

作品No.10



<デザインコンセプト>

練馬の街並みをモチーフにイラストを作成し、全体的にモダンなイメージでまとめた案です。イラストの街並みは、「都会生まれのワイン」なので、都会的なイメージを強めに出すことを意識しています。

作品No.11



<デザインコンセプト>

練馬は自分の中では猫とか動物、昆虫、植物、生物な自然のイメージなのでロゴに入れてみました。

作品No.12



<デザインコンセプト>

やさしくフレッシュな「ねりまワイン」のイメージを水彩画で表現しました。手にとった時、飲むのが楽しみになるようなラベルになっているといいなと思います。

作品No.13



<デザインコンセプト>

馬が葡萄の荷馬車を引くイメージから葡萄の妖精を馬の形でデザインしました。白ワインなので白馬と黄緑の葡萄を組み合わせました。立髪を葡萄の葉で、尻尾を葡萄で表現してみました。

作品No.14



<デザインコンセプト>

「ねりま」の「ね」と「ま」の丸まっている部分がぶどうの木から伸びたつるのように見えたので、ぶどうの剪定枝と「ねりまブラン」は生育期のグリーンのつる、「ねりまルージュ」は収穫後の枯れた茶色のつるを配置してひらがなの「ね」と「ま」を表現しました。

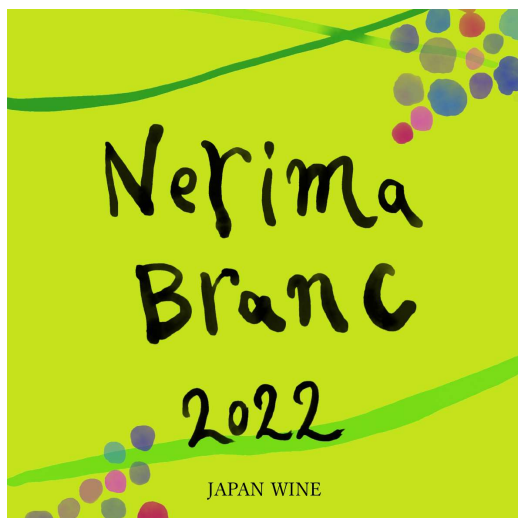
作品No.15



<デザインコンセプト>

デザインしたのは「ほろ酔いの馬」です。練馬の由来とも云われる、豊島氏が馬術をした伝承から室町時代の馬を描きました。区の地図と重ねて、練馬の大地から生まれる美味しいワインを表しました。

作品No.16



<デザインコンセプト>

練馬と聞くと思い出す、光が丘公園での思い出と遠くから見た東京ワイナリーの葡萄畑をイメージしてデザインしました。

作品No.17



<デザインコンセプト>

ねりまの名木「光が丘公園のクスノキ」のように、年々大きく、長く寄り添う存在になるよう願いを込めました。
背景の色の重なりは、ねりまワイン1本1本にたずさわる沢山の方の想いをイメージしています。

作品No.1



作品No.2



作品No.3



作品No.4



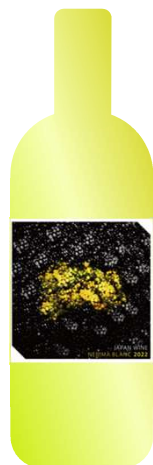
作品No.5



作品No.6



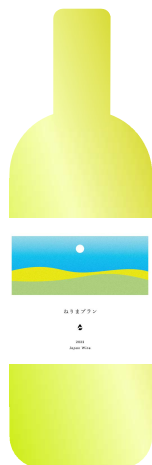
作品No.7



作品No.8



作品No.9



作品No.10



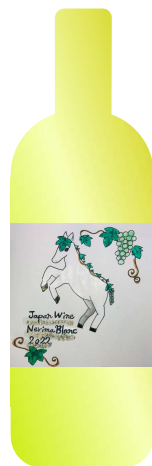
作品No.11



作品No.12



作品No.13



作品No.14



作品No.15



※デザイン背景のボトルはイメージです。

※「ねりまワイン2022」は、数種類のボトルを用いて提供する場合があります。

※ラベルは曲面に貼付し両端は側面にかかるため実際の見え方は異なります。

作品No.16



作品No.17



※デザイン背景のボトルはイメージです。

※「ねりまワイン2022」は、数種類のボトルを用いて提供する場合があります。

※ラベルは曲面に貼付し両端は側面にかかるため実際の見え方は異なります。